



2月22日(土)に、けいはんなプラザで行われた「科学のまちの子どもたちロボットフェスティバル」。主催したのは、京都山城ロータリークラブです。学研都市でロボットの開発を進める研究機関・企業の若い研究者と子どもたちが交流できる場として、開催されました。

研究者は講演で、最先端のロボット技術を、子どもたちにも分かりやすく紹介。NICTユニバーサルコミュニケーション研究所で主任研究員を務める杉浦孔明こうめいさんは「成績は普通でも研究者になれる。特に算数や理科は大切だが、ほかの教科も仕事に必要なので、しっかりとやっておこう」と、呼びかけました。

ロボットの性能を競うロボカップ2013世界大会で準優勝の村田真奈美さん(奈良工業高等専門学校)も、子どもたちに最も年代に近い立場からアドバイス。「ロボットに興味を持ったきっかけは、中学生時代に合った家庭用掃除

ロボットでした。夏休みの研究で、それを目指して作ったロボットが私の原点」と振り返りました。右ページ下写真。

フェスティバルは、町に拠点を置く「けいはんなジュニアロボットクラブ」が共催。同クラブに所属する小中学生たちは、ロボットのデモンストレーションを行いました。

同クラブの川本稜生いづつきくん(山田荘小学校6年)は、これまで学んできたことを発表。右下写真。両親と祖母に見守られながら「失敗してもその理由を考え、何度もやり直すことが大切だ」などとまとめました。閉会後は「緊張した。今後は(中学生対象の)中級コースでステップアップしていきたい」と、抱負を語りました。

最後は、精華町広報キャラクター・京町セイカちゃんが登場。壇上であいさつ。こやかにフェスティバルのフィナーレを飾りました。下中写真。

